

第2期

# 宮城県水循環保全基本計画 【概要版】

みんなでつなぐ いのちの水 ～守り、育て、未来へ～



## 宮城県

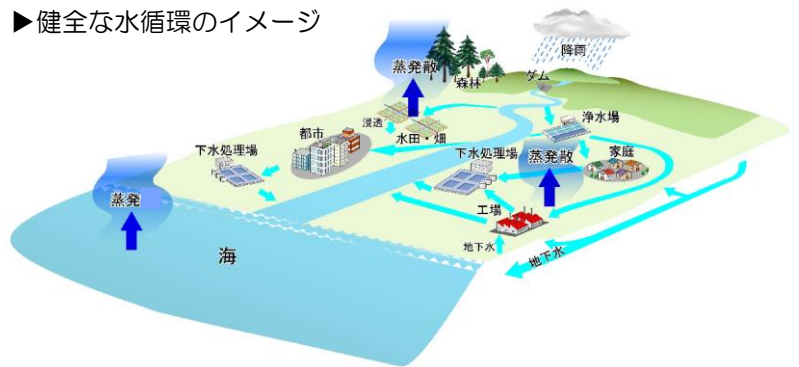


# 1. 計画の基本的事項

## ● はじめに

- 「健全な水循環」とは、自然の水循環において、水の浄化機能その他の自然の水循環の有する機能が十分に発揮され、人間の社会生活の営みと水環境その他の自然環境の保全との適切な均衡が確保されている状態をいいます。

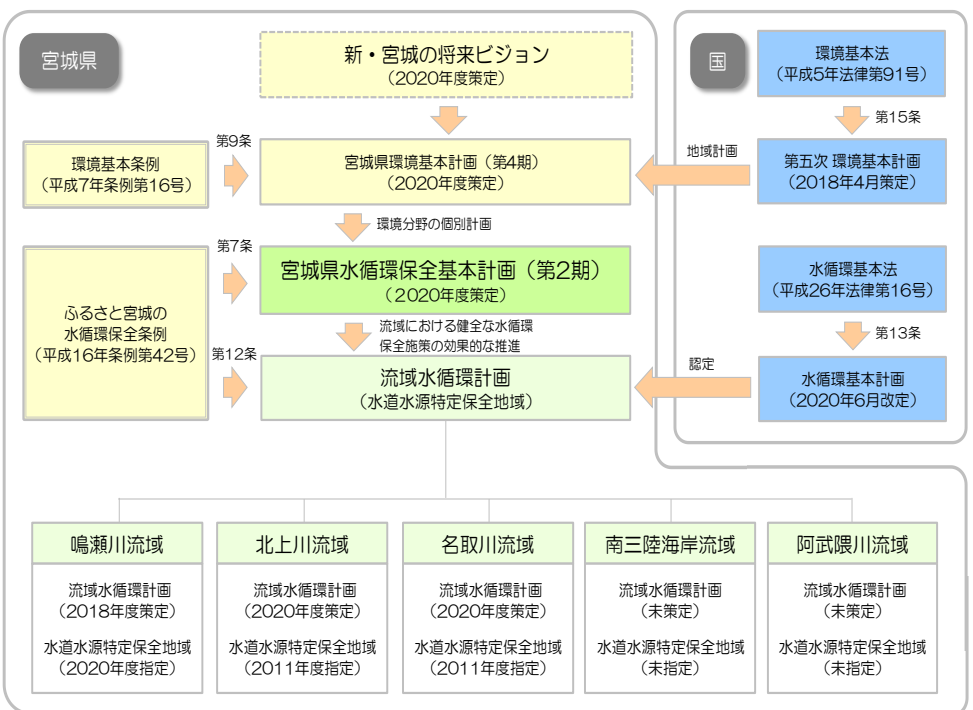
▶健全な水循環のイメージ



## ● 計画の性格と位置付け

- 健全な水循環を保全するための目標や施策等を定めるとともに、その実現に向けて県民、事業者、行政機関等の地域社会を構成する全ての者が公平な役割分担の下に、自主的かつ積極的に取り組むための基本的な方向性を定めます。

▶計画の位置付け



- 本計画は、健全な水循環の保全に関わる施策に取り組み「持続可能な開発目標 (SDGs)」の10の目標に貢献します。

▶持続可能な開発目標 (SDGs) の10の目標



## ● 計画の目的

- 次の3つの事項を定め、恵まれた水環境を次世代に引き継ぎ、現在及び将来にわたって県民が豊かな水の恩恵を享受して快適な社会生活を営むことができる社会の実現を目指します。

- ① 健全な水循環の保全に関する総合的かつ長期的な目標及び施策の大綱
- ② 流域水循環計画を定めるに当たって基本となる事項
- ③ 健全な水循環の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

## ● 計画期間

- 計画期間は、2021年度から2030年度までの10年間とします。

## 2. 計画の基本理念と目指す将来像

### ● 基本理念

# 「みんなでつなぐ いのちの水 ～守り、育て、未来へ～」

- 「ふるさと宮城の水循環保全条例」の基本理念に基づき、本計画の基本理念を定めました。

#### ○ ふるさと宮城の水循環保全条例（抜粋） （基本理念）

第3条 健全な水循環の保全是、水が人間の生命その他自然の生態系の維持に欠くことができないものであり、かつ、人間の社会生活の営みに不可欠な代替性のない資源であることを踏まえ、現在及び将来の県民が、良好な飲料水その他の用水を確保でき、その他自然の水循環のもたらす恵みを持続的に享受できるよう適切に行われなければならない。

2 健全な水循環の保全是、水循環への負荷の少ない快適な県民生活及び持続的発展が可能な県土を構築することを旨として、全ての者の公平な役割分担の下に、自主的かつ積極的に行われなければならない。



### ● 健全な水循環を構成する4つの要素と目指すべき将来像

- 本計画は、健全な水循環を構成する4つの要素として、「清らかな流れ」、「豊かな流れ」、「安全な流れ」、「豊かな生態系」を取り上げ、目指すべき将来像を設定しています。
- 4つの要素について、現状を把握するための管理指標を設定し、その評価に基づき健全な水循環の保全を図るための施策を効果的に推進していきます。

#### ▶ 4つの要素の将来像と管理指標

4つの要素	目指すべき将来像	管理指標
清らかな流れ （水質）	● 河川、湖沼及び海域の水質が良好であり、生活用水や農業用水及び工業用水等の使用に支障が生じず、河川、湖沼及び海域といった水域に生息する動植物の生育にも支障が生じない状態	水質測定結果をもとに、環境基準を満足した地点数の割合
豊かな流れ （水量）	● 森林や農地等の有する多面的機能が十分に発揮されるよう取り組むことにより、雨水が涵養※されて地下水や湧水が豊富にあり、河川では生活用水や農業用水及び工業用水等の流量や動植物の生息、河川景観の維持等のための流量（正常流量）が確保されている状態	森林や農地等の地下水涵養能力と河川の流量が正常流量を満足した日数の割合の平均値
安全な流れ （治水）	● 洪水や高潮等の自然災害に対して、環境に配慮しつつ河川整備や海岸整備を推進することで私たちの資産が守られるとともに、流域全体で総合的な対策に取り組むことによって、大規模な自然災害に対して人命の安全が守られる状態	河川と海岸の整備が必要な総延長に対する整備済み延長の比率の平均値
豊かな生態系 （生物）	● 健全な水循環が維持されることによって、宮城県に本来棲息する多様な動植物の生態系が保たれている状態	土地利用の人為的影響又は自然性の程度と、生息が確認された指標種・重要種数の割合の平均値

※涵養：雨や河川の水が地下へ浸透し、地下水となることをいいます。

# 3. 県土の現状と課題

## ● 計画を取り巻く近年の状況

● 気候変動等の近年の状況を踏まえた課題を整理し、取組の方向性を示します。

### ① 気候変動

- 気候変動等による影響
- 近年の大規模洪水による被災

### ② 東日本大震災

- 東日本大震災の復興事業における環境配慮

### ③ その他

- マイクロプラスチック等による海洋汚染問題
- 新型コロナウイルス感染症等への対応

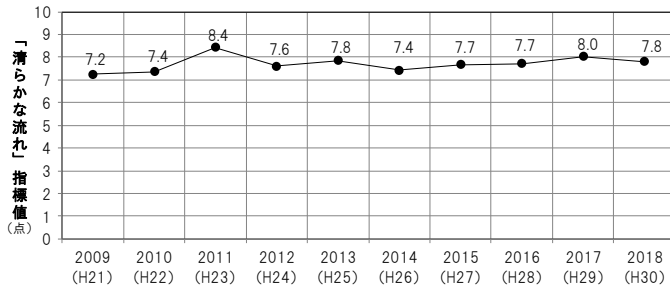
## ● 水循環の4つの要素から見た現状と課題

### ▶ 4つの要素の現状と課題

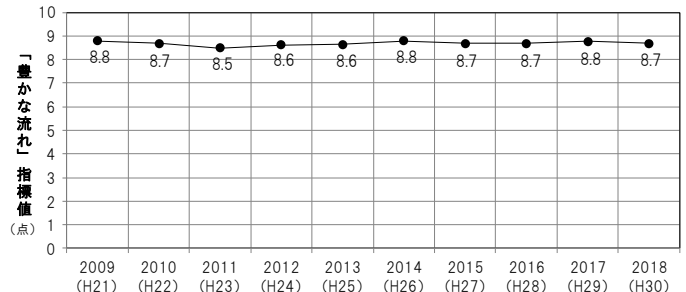
4つの要素	管理指標	現状	課題
清らかな流れ (水質)	今回 7.8点 (2018年度末) ↑ 前回 7.8点 (2013年度末)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水質は横ばいで推移</li> <li>● 湖沼については達成度が低い状況で推移</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 湖沼等への流入負荷量の抑制</li> <li>● 水質汚濁の原因を明らかにして効果的な対策を推進</li> </ul>
豊かな流れ (水量)	今回 8.7点 (2018年度末) ↑ 前回 8.6点 (2013年度末)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地下水涵養能力や河川の流量は横ばいで推移</li> <li>● 気候変動の影響により大規模な渇水が発生する恐れあり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 節水、雨水の有効利用等の取組を継続的に実施</li> <li>● 水利関係者間で円滑な利水調節が行える体制づくり</li> </ul>
安全な流れ (治水)	今回 6.1点 (2018年度末) ↑ 前回 4.1点 (2014年度末)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主に海岸堤防の整備が進められている</li> <li>● 近年、洪水や土砂災害が多発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水害対策の推進</li> <li>● 雨水の流出抑制による河川への負担軽減</li> <li>● ソフト対策の推進</li> </ul>
豊かな生態系 (生物)	今回 7.0点 (2018年度末) ↑ 前回 6.8点 (2014年度末)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広葉樹の林齢の増加、水辺・植生の保全等によって、自然性の高い状態に推移</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外来種の駆除や適切な除伐、間伐等による森林や里山環境、水辺環境の整備・保全</li> </ul>

### ▶ 4つの要素の指標値の推移

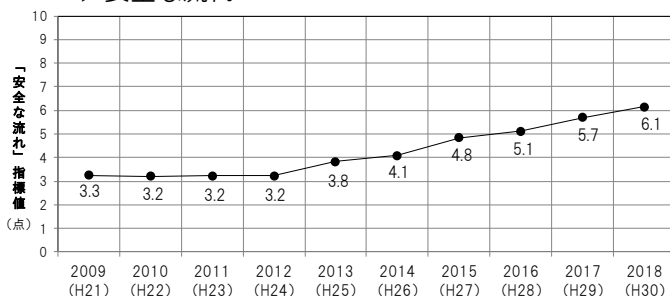
#### ▶ 清らかな流れ



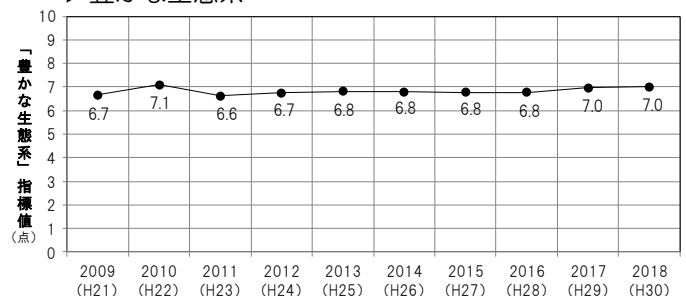
#### ▶ 豊かな流れ



#### ▶ 安全な流れ



#### ▶ 豊かな生態系



## 4. 水循環に関わる県民の意識とこれまでの取組

### ● 県民の意識の変化・取組

- 県民の水循環に対する意識の変化や取組状況について、アンケート調査を実施しました。

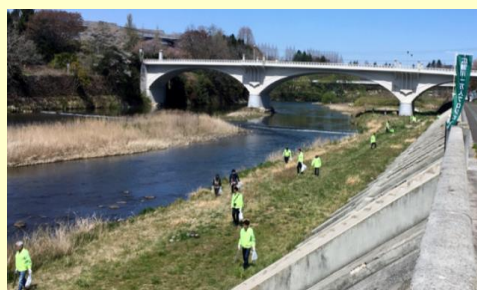
- ▶ 「水害の多発」に対する問題意識が高くなっている
- ▶ 「水を大切に使う」ことの意識が広く浸透している
- ▶ 水辺環境に対し良い評価が多い一方で、水害に対する不安が顕著化
- ▶ 多くの県民が水循環に対する取組が必要と考えており、参加意識も高くなっている

### ● 民間団体及びNPO等の取組

- 民間団体及びNPO等の取組状況や課題について、アンケート調査を実施しました。

- ▶ 「水とのふれあいを増進させる活動」や「河川清掃」等、多くの団体で取り組まれている活動がある一方で、「水に対する防災教育を実施する活動」等では活動団体数が少ない
- ▶ 活動にあたっては情報面と人材面が課題

▶ 広瀬川一斉清掃



出典：広瀬川1万人プロジェクトWebサイト

## 5. 宮城県水循環保全基本計画(第2期)

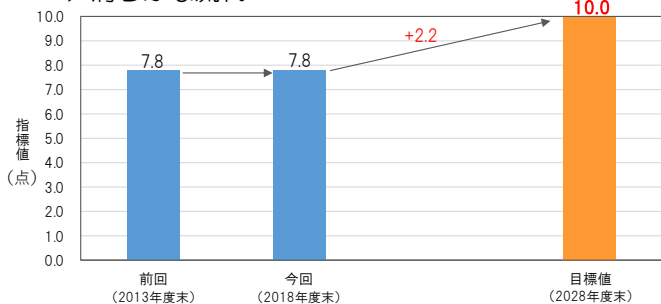
(1)

### ① 健全な水循環の保全に関する総合的かつ長期的な目標及び施策の大綱

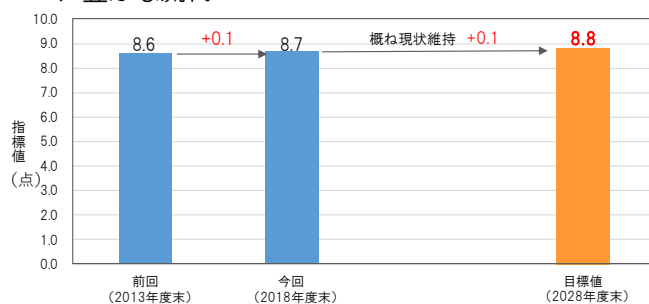
- 4つの要素に対する現状と課題を踏まえ、10年後までを目途とした長期的な目標値を定めます。

- ▶ 4つの要素に対する目標値

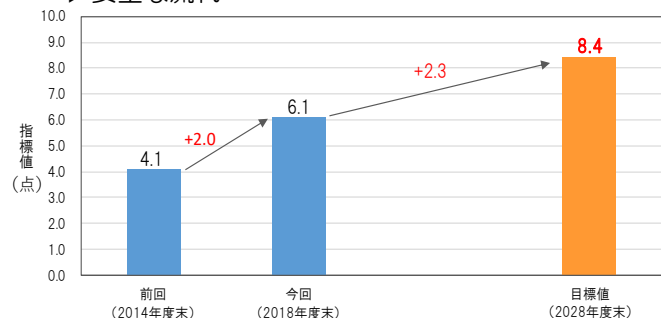
▶ 清らかな流れ



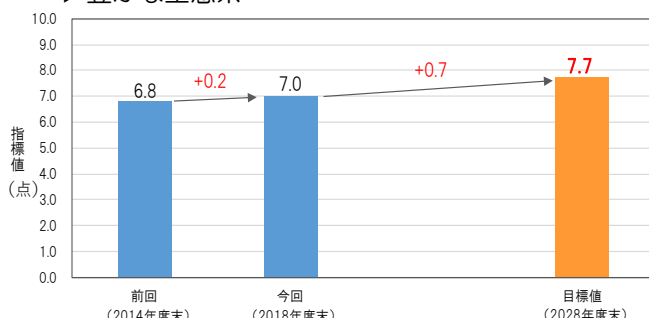
▶ 豊かな流れ



▶ 安全な流れ



▶ 豊かな生態系





# 5. 宮城県水循環保全基本計画(第2期)

(2)

●4つの要素の目標を達成するためには、水質、水量、治水、生態系に関連する施策の横断的な連携のほか、山間部、農村部及び都市郊外部、都市部、海岸部といった上流域から下流域までの連携を図ることが必要です。

- 取組の効果をさらに発現させるため、継続したデータの蓄積・分析及び最新の知見に基づいた対応の検討等を行います。
- 県民ニーズや民間団体等が抱える課題を踏まえ、だれもが参画しやすい施策を展開します。
- 気候変動に伴う水害・渇水リスクの増加や老朽化が進行している水インフラへの対応など、健全な水循環を持続させるための取組を推進します。

### ▶4つの要素と上下流に関わる施策の配置

	清らかな流れ	豊かな流れ	安全な流れ	豊かな生態系
山間部	森林の整備・保全を推進する			
	間伐等の適切な管理を行う			
農村部及び都市郊外部	農地の整備・保全を推進する			
	農地や農業用水ネットワークの多面的機能の維持			
都市部	排水処理の適正化を推進する	自然の水質浄化機能を高める 湿地・湿原を守る	雨水の貯留・浸透による流況の平準化	多自然川づくりなど生態系に配慮した 河川整備を推進する
			雨水、下水処理水の有効活用を行う	
海岸部	地下水汚染対策を推進する	内湾の水質汚濁原因の究明と対策の検討・実施	農業水利システムの保全	ハザードマップの作成・避難対策の強化等・ソフト対策
			渇水時、利水調整を行う	
			ため池の貯留機能等による流況の平準化	都市内の緑地と合わせた連続的な環境の創出
			地下水の適切な利用を行う	
			水使用の合理化を図る	海洋ごみの回収・処理の取組支援 海洋生物モニタリングによるデータ蓄積
			地下水の適切な利用を行う	
			防潮堤防整備を推進した海岸生態系に配慮した	藻場・干潟を保全する

### ▶主な施策

4つの要素	主な施策	行政の主な施策・内容
清らかな流れ (水質)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水質監視、水質汚濁の原因解明</li> <li>●汚濁の発生源における削減対策</li> <li>●生活排水処理の適正化 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共用水域・地下水等常時監視</li> <li>●宮城県地球温暖化対策実行計画（区域施策編）</li> <li>●工場事業場規制</li> <li>●宮城県生活排水処理基本構想 など</li> </ul>
豊かな流れ (水量)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林の整備・保全や間伐等の適切な管理</li> <li>●農地の多面的機能の発揮</li> <li>●大規模開発への対応 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国有林・民有林の地域別の森林計画</li> <li>●みやぎの里山林協働再生支援事業</li> <li>●多面的機能支払の実施に関する基本方針</li> <li>●環境影響評価制度の運用 など</li> </ul>
安全な流れ (治水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川・海岸整備</li> <li>●ソフト対策</li> <li>●グリーンインフラの推進</li> <li>●治水対策 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川整備計画、海岸保全施設災害復旧等</li> <li>●ハザードマップの作成、避難確保計画等の作成支援</li> <li>●社会資本整備総合交付金事業</li> <li>●流域治水プロジェクト など</li> </ul>
豊かな生態系 (生物)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多自然川づくりの推進</li> <li>●水辺環境の保全</li> <li>●海洋ごみ対策 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宮城県河川海岸環境配慮指針</li> <li>●流域活動団体支援事業</li> <li>●宮城県海岸漂着物対策 など</li> </ul>

## ② 流域水循環計画を定めるに当たって基本となる事項

● 流域毎に定める「流域水循環計画」の基本となる事項を定めています。

### ① 基本事項

- 目的
- 計画の策定対象区域
- 計画の策定・更新状況
- 計画の期間
- 目標及び施策の立案
  - 各流域の特性や課題を踏まえて流域管理指標を設定
  - 例) 避難確保計画作成率、生物指標種確認数など

### ② 計画の策定順序等

- 4つの要素の管理指標を評価し、緊急度の高い流域順のほか、これまでの策定状況を踏まえて設定

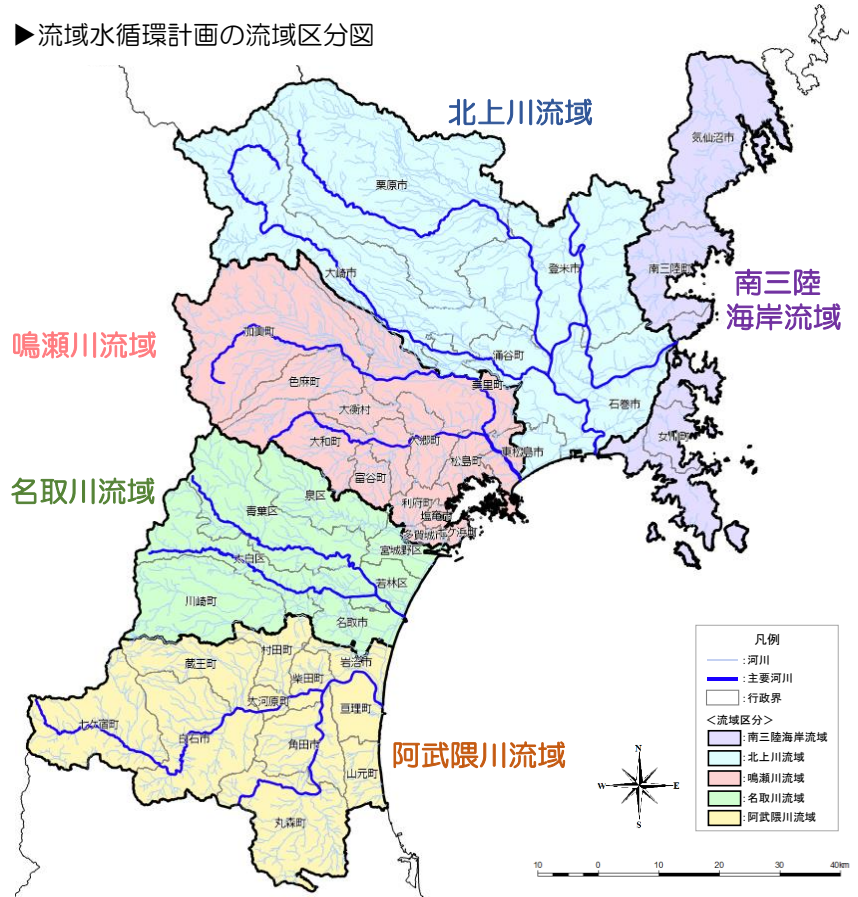
### ③ 計画の策定手順等

- 流域住民や関係市町村等から意見を聴取して計画に反映させるとともに、学識経験者等からなる検討委員会に諮る

### ④ 水道水源特定保全地域の指定

- 山間部の水道水源地域のうち良好な水環境の保全を図る上で特に重要と認められる区域を指定

▶ 流域水循環計画の流域区分図



▶ 流域水循環計画の策定予定

流域	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)
鳴瀬川流域	第1期計画				第2期計画 (2018~2027)										
北上川流域		第1期計画					第2期計画 (2020~2030)								
名取川流域		第1期計画						第2期計画 (2020~2030)							
南三陸海岸流域									第1期計画 (2021~2030)						
阿武隈川流域										第1期計画 (2021~2030)					

## ③ 健全な水循環の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

● 次の事項を定め、施策を総合的かつ計画的に推進します。

### ① 関係団体の連携・協働

- イベント等の情報発信・広報
- 関係団体間で活動内容等の情報共有、相互連携・協働を促進
- 専門知識を有する人材の派遣等

### ② 施策推進のための各主体の役割

- 県民、事業者、民間団体、教育研究機関及び行政団体の各主体が、立場に応じた役割分担のもと、自主的・積極的に取り組む

### ③ 計画の推進

- 流域水循環計画策定・推進
- 関係団体等で構成する流域水循環計画推進会議の開催

### ④ 進行管理

- 管理指標値の確認
- 課題と対応方策の整理
- 取組や連携の在り方の立案
- 団体間の協働・連携促進

### ⑤ 計画の普及啓発

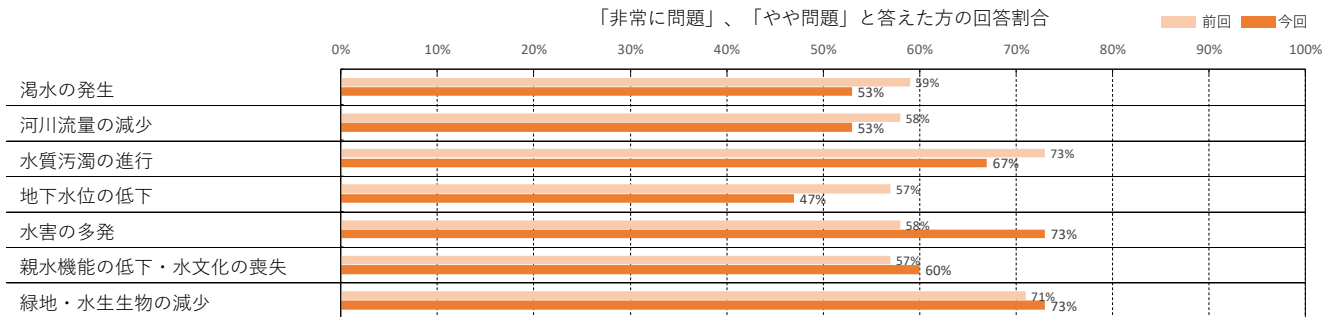
- 普及啓発
- 環境教育等の拡充

# 【参考】水循環に対する県民意識調査結果（一部抜粋）

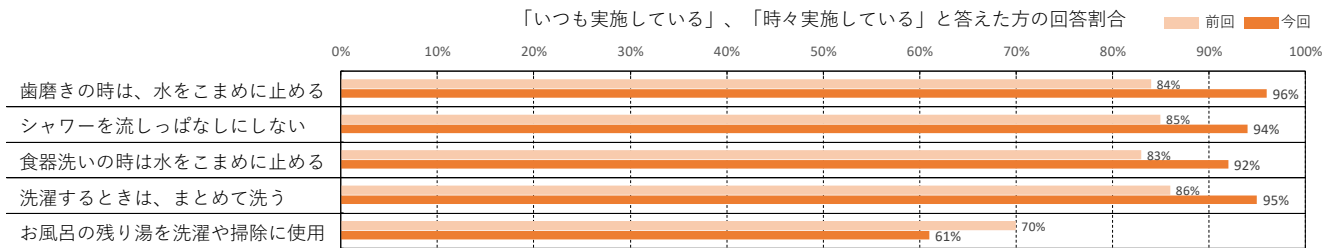
## ▶水循環に対する県民意識調査の概要

	今回実施	前回実施（第1期計画策定時）
実施数	2,000票（選挙人名簿等より抽出）	2,000票（電話帳から抽出）
実施方法	郵送配布、回答は郵送又はWeb	郵送配布、郵送回答
実施期間	2019年9月	2005年9～10月
回収票数	1,051票（回収率52.6%）	681票（回収率34.1%）

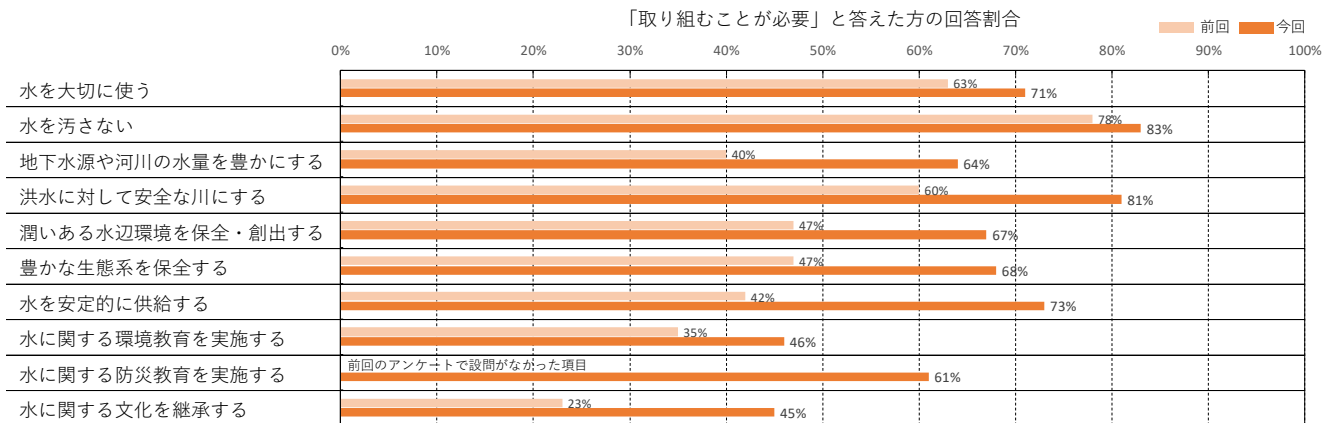
## 質問1 あなたは水を取り巻くさまざまな問題についてどのように考えていますか。



## 質問2 日常生活における水利用について、節水活動に取り組んでいますか。



## 質問3 行政は、どのようなことに取り組むことが必要だと思いますか。



## 宮城県水循環保全基本計画（第2期）概要版 令和3年3月

発行・編集 宮城県環境生活部 環境対策課  
 〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1  
 TEL 022-211-2667 FAX 022-211-2696  
 Mail アドレス kantaie@pref.miyagi.lg.jp

「宮城県水循環保全基本計画（第2期）」の全文は、県環境対策課のWebサイトからダウンロードすることができます。

県環境対策課Webサイト：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyo-t/>

### 表紙の写真



- ① みやぎ蔵王の樹氷
- ② 大倉ダム
- ③ 栗駒山
- ④ 阿武隈ライン舟下り
- ⑤ 大崎平野（大和町）
- ⑥ 蕪栗沼
- ⑦ 広瀬川
- ⑧ 伊豆沼の蓮
- ⑨ 松島遊覧船
- ⑩ 塩竈みなと祭
- ⑪ 気仙沼サンマ水揚げ